

令和3年（2021年）度事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

令和3年（2021年）度事業の概要を下記のとおり報告する。

1. 会員の状況

2022年3月31日現在

会員の種類	当初	入会	退会	現在
正会員	24	1	1	24
賛助会員	46	2	0	48
計	70	3	1	72

入退会内訳

正会員

【入会】(1社)(株)日本インシーク

【退会】(1社)ゼニス羽田とホクコンが経営統合により、1社となったため

賛助会員

【入会】(2社) (同)アールアンドユー・レゾリューションズ、東京インキ(株)

なお、3/31をもって、正会員1社(アートンシビルテクノ)、賛助会員2社(三井住建道路・テクノテック)が退会。

2. 社員総会、理事会等の開催

(1) 社員総会

・第10回定時社員総会

開催日：2021年5月28日 Web会議方式

正会員総数 23名

出席 22名 欠席 1名

内訳 出席会員数(オンライン参加) 12名

書面による議決権行使数 2名

委任状による代理人数 8名

議事 (決議事項)

第1号議案 令和2年(2020年)度事業報告承認の件

第2号議案 令和2年(2020年)計算書類及び同附属明細書承認の件

第3号議案 令和3年度役員報酬承認の件

第4号議案 役員選任の件(補選)

(報告事項－第31回理事会決議事項)

令和3年度事業計画書報告の件

令和3年度収支予算書報告の件

◇決議事項の第1号議案から第4号議案については、審議の結果事務局原案のとおり可決承認された。

・第1回臨時社員総会(書面決議)

決議があったものとみなされた日：2021年7月16日

正会員総数 24名

同意書 24通

議事(決議事項)「役員選任(辞任による補充選任)」の件

◇決議事項について、社員全員から書面により同意の意思表示を得たので、法人法第58条(定款第19条)に基づき、社員総会の決議の省略の方法により、可決承認する旨総会の決議があったものとみなされた。

(2)理事会等

・社内監査(2021年4月28日)

監事2名による、2020年度の収支及び財産の状況並びに理事の業務執行状況について監査が行われ、いずれも適正であるとの承認を受けた。

・第28回理事会(2021年5月13日)

上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催、第10回定時社員総会に提出する議案、「令和2年度事業報告」、「令和2年度決算関係書類」、「役員候補者(補選)」、「第10回定時社員総会における書面での議決権行使について」の審議を行い、いずれも事務局原案通り承認された。

・第29回理事会(2021年6月30日)

濱野理事辞任による理事補充選任の必要が生じ、また、合同会社アールアンドユー・レゾリューションズより賛助会員へ、株式会社日本インシークより正会員への新規入会の申し込みがあったため、上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催し、理事補充選任のための決議省略による臨時社員総会の開催と新規入会について審議を行い、ともに承認された。2社の入会については、7/1付で入会、会費は7月からの四分の三期分を徴収することとした。

・第30回理事会(2021年7月30日)

東京インキ株式会社より賛助会員へ、新規入会の申し込みがあったため、上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催し、入会について審議を行い承認された。8/1付で入会、会費は8月からの四分の三期分を徴収することとした。

・第31回理事会

開催日：2021年10月15日 場所：雨水協会会議室
理事総数10名 出席理事数9名 出席監事2名
議案（決議事項）

『顧問の選任』について

（報告事項）

- ① 役職理事の職務執行状況報告
- ② グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
業界団体向けワークショップ開催について
- ③ 第37回技術講習会開催について

◇決議事項については、審議の結果、事務局提案の通り、顧問1名は当面空席とすることが承認された。

・第32回理事会

開催日：2022年3月22日 Web会議方式
理事総数10名 出席理事数9名 出席監事2名
議案

（決議事項）

- 第1号議案 『会員との協働に関する内規 承認』の件
- 第2号議案 『役員報酬規程 改定』の件
- 第3号議案 『職員報酬規程 改定』の件
- 第4号議案 『令和4年度事業計画及び収支予算書等承認』の件
- 第5号議案 『令和4年度役員報酬案承認』の件
- 第6号議案 『第11回定時社員総会の日時及開催場所並びに目的事項等』の件

（報告事項）

- ① 役職理事の職務執行状況報告
- ② 令和3年度決算見込みについて
- ③ 企画委員会報告
- ④ 顧問の補充について

◇決議事項の6件については、審議の結果、事務局原案のとおり承認された。

(3) 常設委員会等 () は開催回数

- ① 企画委員会 (5回：6/8, 8/5, 10/1, 12/9, 2/1) Web会議
委員長：日本工営(株) 高祖 成一
- ② 編集委員会 (4回：6/7, 9/6, 12/6, 3/7) Web会議
委員長：首都大学東京 特任教授 河村 明
- ③ 評価認定委員会 (4回：6/15, 9/21, 12/15, 3/7)
委員長：東京大学名誉教授 虫明 功臣
- ④ プラスチック製地下貯留浸透施設普及部会 (2回：6/3, 2/21) Web会議
- ⑤ GI準備会 (8回：10/8, 10/22, 11/16, 12/14, 12/24, 1/21, 2/8, 2/25) Web会議
座長：物林(株) 勝田 幸仁朗

3. 調査、研究、開発

(1) (都市河川流域の)水循環系健全化方策の検討

- ① 新たな製品、構造物およびシステムの開発と実用化
 - ・地下 10m以深に雨水を透過促進させる工法の開発 【正会員 キヤドテック】
 - ・透水性と保水性に富んだ（仮称）グリーンインフラソイルの開発
【(公財) 都市緑化機構 G B M 共同研究会】
- ② できる限り自然を活かした効果的な方策（緑地の持つ保水機能評価）
 - ・雨庭を活用した新しい浸透貯留施設に係わる検討 【UR 都市機構】
 - ・簡便な地表面の飽和透水係数測定方法(インフィルトロメータ法)の開発 【東京都立大】
 - ・土壌表層の浸透能・透水性に関わる測定法の比較調査 【(国研) 建築研究所他】
- ③ 雨水の水質コントロール
ポーラスコンクリートを用いた雨水流出水からの重金属除去法の開発
【福島大学、マテラス青梅との JST・A-STEP 研究】

(2) 雨水貯留浸透施設の効果評価の検討

- ① 開発地域の特性に見合ったゼロディスチャージ型貯留浸透施設の計画設計の検討
2027 横浜国際園芸博覧会におけるグリーンインフラによる流出抑制に関する技術指導
- ② 流域、都市、開発地域等での効果について、解析的な評価手法や簡便な評価手法を適用した検討
 - ・第 37 回雨水貯留浸透技術講習会、「簡便な流出抑制対策量の算定方法」を紹介
 - ・民間再開発事業における流出抑制対策量の照査
- ③ 現地浸透能力調査
 - ・水戸（秩父ケミカル）

(3) 全国における貯留浸透施設普及状況の実態把握と普及方策の検討

- ① 2021 年度プラスチックおよびコンクリート製地下貯留槽施工実績調査
- ② GBM(グリーン・ビジネス・マネジメント)共同研究会
グリーンビジネスにおける雨水の貯留・浸透・利用普及の検討及び海外・国内のグリーンインフラ情報の収集
- ③ 雨水・再生水利用施設等データマップのサーバー更新
- ④ 季刊誌「水循環 貯留と浸透 Vol.120 特別号雨水」の創刊(5 月)

(4) 雨水貯留浸透技術のアジアモンスーン地域への展開検討

- ① JICA「中小企業海外展開支援事業～普及・実証・ビジネス化事業」
国際協力機構（JICA）が推進する下記事業へ外部人材として参画。
 - ・「タイ国 浸水被害の軽減に寄与するプラスチック製雨水貯留構造体の普及・実証・ビジネス化事業」（令和元年6月より2年間）
 - ：秩父ケミカル（株）、ガイドライン及びモニタリング結果報告書の作成
 - ・「インドネシア国 膨張粘土および軟弱地盤地域におけるインフラ被害への多孔質コンクリート製品導入案件化調査」（令和4年3月～令和4年12月）
 - ：北海道ポラコン（株）、技術適合性と技術指針等の調査

4. 技術指針等の整備

以下の書籍の内容の見直しや時点修正を行い、増刷した。

- ・増補改訂 雨水浸透施設技術指針（案）構造・施工・維持管理編（2021年7月）
- ・増補改訂雨水浸透施設技術指針（案）調査・計画編（2022年1月）
- ・増補改訂 流域貯留施設等技術指針（案）（2022年3月）

5. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動

(1) 図書等の発行・頒布

① 季刊誌「水循環 貯留と浸透」第120号～123号

- 各号特集テーマ 120号 特別号「雨水」：創立30周年記念
121号「気候変動×雨水」
122号「ものづくり×雨水」
123号「流域治水×雨水」

※令和4年度より、名称を「季刊誌」ではなく、「機関紙」へ変更する。

② 雨水浸透施設技術指針等発行図書の頒布

(2) 技術講習会・施設見学会の開催

第37回 雨水貯留浸透技術講習会

開催期間：2021年11月22日（月）～12月13日（月）

開催方式：ビデオ・オン・デマンドでのWeb視聴

受講者数：115名（自治体職員、会員・会員外企業等）

流域治水 きほんのき	
題 目	講 師
最近の河川行政の話題 ～流域治水関連を中心に～	国土交通省水管理・国土保全局治水課 課長補佐 池田大介
激甚化する水害のリスクマネジメント	東京海上ディーアール(株) 企業財産本部 主席研究員 篠原瑞生
雨水協会のめざす水マネジメント	(公社)雨水貯留浸透技術協会 会長 佐藤直良
【特集】 流出抑制（計画設計手法）の基礎を学ぶ	
総論 （計画対象降雨、流出抑制のメカニズム）	ARSIT水循環アドバイザー 城東リプロン(株) 忌部正博
貯留施設の計画・設計 （宅地開発レベル）	ARSIT水循環アドバイザー 元三井共同建設コンサルタント(株) 野村茂夫
浸透施設の計画・設計 （宅地開発レベル）	ARSIT水循環アドバイザー (同)アールアンドユー・レゾリューションズ 尾崎昂嗣
分散型流出抑制施設の効果評価 （流域レベル）	ARSIT水循環アドバイザー 日本工営(株) 中村 茂
簡便な流出抑制対策量の算定方法	ARSIT水循環アドバイザー 日本工営(株) 内山雄介
講演時間	各20分程度 合計：3時間20分

※コロナ禍のため、『見学会』は未実施

(3) 普及・啓発のための雨水貯留浸透施設の展示・セミナーの開催等

* 第二回気候変動と雨水活用シンポジウム

「雨水活用の普及と基準や制度を考える」(2021.5/13)

雨水基準制度研究会が主催の標記シンポジウムにおいて当協会の屋井常務理事が「雨水活用の製品技術」について Web にて報告を行った。(参加者数：約 270 名)

* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」

第 1 回「わたしたちの生活と水」(2021.7/30)

笹川みちる氏 (NPO 法人雨水まちづくりサポート 理事) を講師に招き、自然の水循環と都市の水循環、蛇口の向こうと排水溝の向こうの水インフラ(水道・下水道)の基本と課題、見えないところで消費しているバーチャルウォーターの話など、暮らしの中の水を捉えるいろいろな視点を学んだ。(参加者数：12 名)

* 第 12・13 回なごや水の環推進懇談会 (2021.8/23, 2022.3/29)

ARSIT 水循環アドバイザー奥谷順彦が、首記懇談会のメンバーとして参画。

* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」

第 2 回「雨水活用きほんのき」(2021.8/27)

講師 笹川みちる氏、ゲスト講師に当協会の企画委員である石塚浩司氏(帝人(株))を招き、屋井常務理事とともに水循環をつくる雨水活用の意義や各地の実例を紹介し、雨水を有効に使うために用いられる技術や製品について学んだ。(参加者数：11 名)

* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」

第 3 回「現場レポート 雨水タンクのある暮らし」(2021.9/24)

笹川みちる氏、高橋朝子氏 (NPO 法人雨水市民の会事務局長) を講師に迎え、駐車場下に 2 トンの雨水貯留槽を備えたご自宅から Web 配信を行い、雨水の使い方や水質・水量、維持管理などについてお話を伺った。(参加者：12 名)

* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」

第 4 回「雨のゆくえをデザインする：墨田区の事例紹介」(2021.10/29)

講師の笹川みちる氏により、東京都墨田区による雨水活用の取り組み、助成金や環境条例などの制度づくり、地域で雨水タンクを共有して災害に備える取り組みなどについてご説明いただいた。(参加者：10 名)

* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」

第 5 回「雨水活用をめぐる最近の動向」(2021.11/26)

笹川みちる氏、中村晋一郎氏 (名古屋大学 准教授) を講師に迎え、2014 年に施行された水循環基本法、雨水の利用の推進に関する法律や、今年大きな動きがあった流域治水など、雨水に関わる政策や現場の取り組みに関する最近の動向とこれからの展望を解説いただいた。また参加者で市民や企業ができる活動についても議論を行った。(参加者：10 名)

*** グリーンインフラ官民連携プラットフォーム共催セミナー**

「グリーンへのブルーの期待と貢献」(2021. 11/30)

グリーンインフラ官民連携プラットフォームとの共催で、「くらべてみよう！雨水貯留浸透とグリーンインフラ」をテーマとしたセミナー・ワークショップを行った。

セミナーでは、雨水の流出抑制におけるグリーンインフラの活用状況や課題についての紹介を、ワークショップにおいては、流出抑制機能に特化した場合の雨水貯留浸透とグリーンインフラの類似性や相違点並びに今後業界が目指すべきグリーンインフラ施設像についての意見交換を行う2部構成で開催した。

(参加者：1部226名、2部27名)

*** 第13回 雨水ネットワーク全国大会 2021 オンライン (2021. 12/5)**

雨は、恵み？ 災い？ ～これからの雨とのつきあい方～

今回はじめてオンライン開催となった雨水ネットワーク全国大会。近年雨による甚大な水害が全国各地で頻発しており、『雨は、悪者、邪魔者』という印象が強くなっているいま、改めて、雨は“恵み”なのか？ “災い”なのか？という問いに向き合ってみることをテーマに開催。屋井常務理事が実行委員長を務めた。

*** ARSIT Learning Salon オンライン連続講座「雨でつながる水循環入門」**

第6回「振り返り&トークサロン (自由参加)」(2021. 12/17)

笹川みちる氏により、これまでの5回の講座をダイジェストで振り返り、その後、受講生の皆さんから、講座の感想や質問・要望、受講して変化したこと、雨水活用に関して今後取り組みたいことなどを自由にお話頂き、講師及び参加者の交流を図った。

(参加者：7名)

*** 『環境経営入門』～企業・事業者における環境対策の急所～ (2022. 2/21)**

神奈川大学名誉教授で、当協会の技術評価認定委員会委員である大石不二夫氏を講師に迎え会員限定の無料オンラインセミナーを実施した。

(参加者：20名)

(4) 雨水貯留浸透技術に関するPR及びパンフレットの作成・配布

- ・名古屋港利用促進協議会, 雑誌「名古屋港」235号 (2021. 7 発刊)
「都市の水循環系の健全化に向けて-雨水貯留浸透技術とその普及のための取り組み」
- ・環境新聞, 浸水対策特集「雨水貯留浸透技術協会、グリーンインフラの取り組み-浸透不適地を土壌改良、都市緑化により流出抑制」(2021. 7. 21 発行)
- ・日本造園学会誌「ランドスケープ研究86巻1号」に「公園・校庭・大規模開発地の雨水貯留浸透機能について」(2022. 2月投稿、2022. 4 発刊予定)

(5) 雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの対応

国、自治体、企業、コンサルタント、個人等からの電話、メール等による問い合わせ、相談等に対応した。また、会員に対し、雨水貯留浸透に関するFAQ集作成のため、よくある質問項目についてアンケートを実施した。

- ・建築研究所から“緑地の保水能測定方法”についての相談に対応した。

- ・国土技術政策総合研究所下水道研究室から“雨水浸透施設の浸透能力残存率のモニタリング実験”についての相談に対応した。
- ・東日本旅客鉄道建築課からの某駅ホームの浸透施設に関する能力評価方法等についての相談に対応した。

(6) 雨水貯留浸透技術に関する社外講演及び学会発表(海外含む)

① 市民団体や関係機関等の依頼による講演活動

* 物林株式会社社内研修 (2021. 4/9)

会員企業である物林株式会社の新入社員を対象とした社内研修において、屋井常務理事が講師として招かれ、講義を行った。

* 第 29 回 日本雨水資源化システム学会大会 (2021.11/6~7 Web 開催)

屋井常務理事が理事(海外連絡委員長)を務める日本雨水資源化システム学会の第 29 回学会大会が Web にて開催された。研究発表会では、「土壌改良による表面浸透能力改善効果」について、益田技術部次長が発表を行なった。

また、総会において屋井常務理事が学会副会長に就任。(参加者：約 50 名)

* 松山市河原デザイン・アート専門学校 雨のワークショップ 2021

(2021. 4/23, 4/30, 5/14, 5/21, 6/4, 6/18, 6/25, 7/2, 7/9 Web 開催)

建築士を目指す専門学校生約 80 名を対象に、「街角にある雨の坪庭」のアイデアを考えるワークショップを 4 月より約 3 ヶ月に渡り開催。企画及び技術指導として大西が参加した。

* 第 52 回 日本緑化工学会大会・都市技術研究部会 研究集会 6

「緑地の保水能とグリーンインフラ」(2021.9/12 Web 開催)

屋井常務理事が「緑地の保水能と土壌硬度」と題して講演を行った。

(参加者：約 80 名)

また、講演した内容は日本緑化工学会誌 46 (3) に特集記事の一つとして取り上げられた(2022. 2 発刊)。

* ICHARM 講義 (2022.3/3)

水災害リスクマネジメント国際センター(ICHARM)の海外向け修士課程の学生に忌部水循環アドバイザーが「日本の都市河川における統合的流域管理」と題して、講義を行った。

* 土木学会関東支部第 49 回技術研究発表会 (2022. 3/10 Web 開催)

「インフィルトロメータを用いた都市内緑地の現場透水係数の算定方法に関する一考察」を都立大学と連名で投稿し、発表した修士学生が優秀発表者賞を受賞した。

* 第 56 回日本水環境学会年会(2022. 3/16~18)

「ポーラスコンクリートによるノンポイント重金属のオンサイト流出抑制技術の高度化」を福島大学、マテラス青梅と連名で投稿し、福島大学原田秀樹教授が発表した。

② 海外国際会議等での発表

該当なし

【令和3年度品質確認済一覧】

No	会社名	型式	認定番号	評価認定工法の名称
1	シンシブロック(株)	720-2NB	1号	シンシブロック槽
2	(株)明治ゴム化成・タキロンシーアイ(株)	A9	6号	アクアブラ工法
3	積水テクノ成型(株)	CW-HA	9号	クロスウェーブ工法
4		CW-HD		
5		CW-S		
6		CW-N		
7		CW-NS		
8	秩父ケミカル(株)	NT	12号	ニュートレンチ工法
9	アロン化成(株)	MA-1	16号	MA-1工法
10	城東リブロン(株)	720RF型	19号	ハイドロスタッフ工法
11		720NS型		
12		720RF+NS型		
13	秩父ケミカル(株)	PD-A	20号	ブラダム工法
14	日東商事(株)・(株)日東ジオテクノ・(株)佐藤渡辺	AE-1	26号	ジオプールAE-1工法
15	(株)IHIインフラシステム	GEOCUBU	27号	GEOCUBE(ジオキューブ)工法
16	(株)トーテツ	AP	29号	アクアパレス工法
17	リス興業(株)・(株)クボタケミックス	S-II	30号	スタジアム工法
18		S-II S		
19		S-II + II S		
20	タキロンシーアイ(株)	RS-N	31号	レインセーブN工法
21	エバタ(株)	SP	34号	エバタプラスチック製雨水貯留浸透工法
22		PC		
23	秩父ケミカル(株)	NP	42号	ニューブラ工法
24		NPライト		
25	天昇電気工業(株)	TRS	43号	テンレイン・スクラム工法

7. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力、提言等

① 公共機関への協力提言等

- * 流域治水の推進に関し、業界団体ヒアリングへの協力
- * グリーンインフラ官民連携プラットフォームの運営委員会・技術部会への協力
- * グリーンインフラ官民連携プラットフォームの雨水貯留浸透業界団体共催セミナー・ワークショップの実施
- * 第3回グリーンインフラシンポジウム(2022.3/14~3/15)の準備会(物林)や当日のパネルディスカッション(建設技術研究所)や会員セッション(東急建設)に対し会員を派遣する等開催への協力

② 海外からの調査団等の受け入れ、国際交流等

- * ICHARM 講義 (2022.3/3)

③ 建築学会等外部組織との連携による普及・調査研究業務の実施

- * 日本建築学会 あまみず活用の評価を考える小委員会
- * " " " 雨水活用技術規準改定小委員会
- * 都市緑化機構 GBM共同研究会
- * グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

以上

※令和2021年(令和3年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定される付属明細書について、「事業報告の内容を補足する重要な事項」がありませんので作成しておりません。